

稲作

営

農

情

報

〈水稲の作況〉(9月15日時点)

東北農政局秋田支局が公表した、コメの作柄概況によると、秋田県内の作況指数は前年同期比2ポイント減の102「やや良」でした。9月15日現在における水稲の作柄は、出穂期となる8月上旬の気温・日照時間が平年を上回って経過し、登熟が「やや良」と見込まれることから10a当たり予想収量は585kg(県北は566kg)となり、前年産に比べて11kg(県北は13kg)の減少が見込まれている。

高品質・良食味米の安定生産に向けた土づくり

土づくりは、必ず実施すべき基本技術であり、土づくりを実施しない圃場では高品質・良食味米の安定生産を行うことはできません。

登熟期間の根の活力低下による養水分吸収量の低下は、登熟に大きな影響を及ぼします。このため、根を健全に保ち根域を深く拡大させ、生育途中の急激な葉色低下や生育の停滞を防ぎ、登熟後半まで根の養水分吸収能力や光合成能力を高く持続させる土づくりの技術は、高品質・良食味米の安定生産にとって必須の技術です。

土改材肥料散布+秋耕起のすすめ

稲刈り終了後、土壌改良資材を散布し耕起を行えば翌年の土づくり肥料を省略できるほか、稲ワラの腐熟が進み、ワラの浮きや残った多年生雑草が、新たに地下に繁殖体を作るのを防ぐため、翌年の雑草・病害虫の抑制に効果があります。



◆けい酸のはたらき◆

けい酸は、稲の葉や茎などの表面にけい化細胞を形成し、稲体を丈夫にするので次のような効果が期待できます。特に、速効性けい酸は稲の生育初期から吸収され、りん酸の吸収促進と根のはりを旺盛にします。



営農行事案内

肥料・農薬勉強会を11月17日・18日に開催!

肥料・農薬の適正使用を説明するため、11月17日と18日の2日間にわたり、肥料・農薬勉強会を開催します。低温・高温障害への対応や、除草剤の散布時期などについて、JAやメーカー担当者が説明・相談を行います。なお、28年度用の肥料・農薬予約注文は、12月25日(金)となっておりますので、ご注意ください。
※年内配達を希望される方は

11月20日(金)が期日となります。



牡羊座 (3・21~4・19)

今月のあなたの運勢 (2015年10月)

ネガティブな発想をしやすい月。意識してプラスを考えてみましょう。日記や手帳を読み返すと参考になりそう

2015.10月号

しらかみ

8